

大崎上島町での「レモン」生産状況

【平成31年2月6日掲載】

大崎上島町では、昨年10月からレモンの収穫・出荷が始まりました。昨年1月の寒波により、枝の枯れ込みや不完全花(結実しない花)が多くなったため、出荷量の減少が予想されています。

かんきつ農家の松岡清士氏(まつおか せいし、レモン栽培面積45a)は「寒波により被害が発生したものの、液肥散布を中心に樹勢回復に努めた結果、「思ったよりも着果しており、前年並みの出荷量が見込めそう。」と話しています。一方で、町内には寒波被害で着果量が大きく減り、生産量の回復が急務となっている園地も多くあります。当所では、寒波被害樹の対策として、樹勢を回復させるための葉面散布、施肥管理などをJAと連携して色々な機会を捉えて情報発信していきます。

広島県産レモンは、知名度の向上や安全安心志向の高まりから、市場、量販店などから増産を期待されています。大崎上島町では、レモン振興策を協議し、栽培面積を25haから40haに拡大する計画することとなっており、平成26年度からは、島内の平坦地を活用したレモン団地づくりなどに取り組んでいます。

今後も、町内の生産者、JA、町、県など関係機関が協力して、さらに大規模なレモン団地づくりを進めることにしています。



【松岡氏の圃場】



【レモン団地(水田転換畑)への植栽状況】

情報提供元

西部農業技術指導所